

第4回福井県高等学校教育問題協議会

協 議 資 料

<目 次>

- | | | |
|---|---------------------------|-----|
| 1 | 第3回会議における意見・提案要旨 | P 1 |
| 2 | 職業系学科の在り方に関する意見のまとめ | P 8 |

1 第3回会議における意見・提案要旨

(1) 各職業系学科の現状・課題および意見・提案

① 商業系学科
【論 点】 ・ 起業家精神やマネジメント能力を育成するためにはどのような教育が必要か。 ・ 進学希望者の増加に伴い、教育体制をどう充実すべきか。

<現 状>

- 他県と比較すると、高校の生徒数に占める割合が高い（福井県 12.3%、石川県 7.3%、富山県 10.0%、全国 8.2%）。その理由には、「進学・就職のどちらにも融通が利く」「部活動が盛んであるなど、学校そのものに惹かれる」などが挙げられる。
- 進学率および大学への進学率は、職業系学科の中で最も高い（進学率は、10年間で1.4倍に上昇）。大学への進学は、商業・経済・経営等の学部への進学が多く、進学者の7～8割を占める（高校の学科との関連性が高い）。
- 女子生徒が、生徒数の約6割を占める。
- 商業学科の特徴、メリットとしては、以下の2点が挙げられる。
 - ① 専門科目の一部を英語（商業英語）で代替できるなど、大学進学への対応が他の学科よりもしやすい。
 - ② 大学においても、商業学科出身者は商業的な物の見方が身に付いており、学生が多様化することにより学習の活性化が見られる。

<意見・提案>

- 他の学科と比較すると、やや専門性が乏しい。
- 現在の商業系学科の学科名や教育内容は、起業家精神やマネジメント能力の育成を図る点では、少し物足りない面がある。
- 起業家精神の育成には、販売活動などの企画や体験が不可欠。

<今後の方向性>

- 長期インターンシップの実施など、地元産業界との連携が必要。
- パソコン、英語学習等において実践的学習を徹底するなど、社会に出てから即戦力となるような教育を行ってはどうか。ある意味では、普通科以上に社会に出て役に立つということもあるのではないか。

② 工業系学科

【論 点】

- ・工業系学科で何を教えるべきか、どのような人材を育てるのか。
- ・学科を大きく区分すると機械、電気、化学、建築、土木（建設）、情報、デザイン（繊維）に分けられるが、今後どのような学科が求められるか。

<現 状>

- 進学・就職の割合は約4：6、就職者のうち70％以上が建設・製造業に従事（建設業15％、製造業55％）。
- 生徒の志望倍率は、商業系と比較するとやや低い。これには、理論と実践がはっきりしている学科であることが影響しているものと考えられる。
- 教育内容が非常に似ているのに、学校によって学科名が違う。また、学科の細分化の傾向がある。これは、10年ほど前に、大学の学部・学科の再編が加速したときに、特色を出すために様々な学部・学科名が生まれたことが影響している。

<課 題>

- 特徴を出そうとしてつけた学科名が、かえって内容をわかりづらくしている面がある。
- 生徒数の減少に伴い、学科の小規模化が進めば、一定のレベルの専門教育を平等に受けることが困難になる恐れがある。

<意見・提案>

- 各学校の学科の特色を出すことは必要だが、もう少し選択と集中を考えるべき。
- 一定の規模の拠点校の設置を検討したらどうか。
- 電気・機械・建設等のベーシックな学科名で、その中で生徒が科目を選択し、エンジニアというものに、より魅力を感じるような学科・カリキュラムの見直しをする必要がある。
- 同じ工業系学科同士が連携を図り、夏休み等を利用し、生徒と教師がよりハイレベルな研修を受けられるようなシステムが必要。
- 工業系学科は、製造業を中心とした本県の産業界を支える人材を育成している。地域の企業と学校が連携して、技術系の学生を育てていく土壌を作っていくことが必要。

③ 農業系学科

【論 点】

- ・生徒数が減少する中、本県の農業を支えるスペシャリストの育成を図るため、学科の配置、教育内容はどうかあるべきか。
- ・本県農業を支えているのは兼業農家であることを踏まえ、農業系学科にはどのような在り方が求められるか。

<現 状>

- 他県と比較すると、高校の生徒数に占める割合が高い（福井県 5.0%、石川県 2.1%、富山県 2.5%、全国 3.9%）。
- 平成20年度の中学卒業予定者の第1志望倍率は、平均1.16倍となっており、募集定員を満たしている。

<課 題>

- 入学してくる生徒が多様化し、非農家の生徒が大多数を占めており、実習等が苦手な生徒が増えている。
- 卒業後すぐに農業後継者となるものは非常に少ない。
- 食品関係など農業に関連した就職先はあるが、学習内容との関連性は薄くなっている。
- 本県農業の特徴として、農業の他にも職を持つ兼業農家が大多数を占めていることもあり、幅広い学習ができる環境が必要。
- 工業系学科と同様に、学科の細分化が見られる。

<意見・提案>

- 就農者が少ないのは、現在の社会状況から見て当然。一度社会に出て、経験をつんでから農業に従事するほうがよい。
- 農業だけで職業能力をつけることが難しいのなら、他の学科とあわせて進路等を考える学校があってもよい。総合学科や、専門学科で他の学科の科目を取れるようなシステムを考えた方が生徒にとってもよいのでは。
- 本県は農業県。農業の大切さを子どもたちに積極的に教えていかなければいけない。農業の勉強をする機会の確保は必要。
- バイオテクノロジーの例を見ても、工業と農業の境目が低くなっている気がする。新しい産業へのマッチングを進めれば、農業高校へ入学する意識も高まるのでは。
- 教える内容が、生産を中心とするカリキュラムになっているのではないか。農業の概念は、生産から流通までを含めて幅広く考える必要がある。

④ 水産系学科

【論 点】

- ・生徒数が減少する中、本県の水産業を支えるスペシャリストの育成を図るため、学科の配置、教育内容はどうかあるべきか。

<現 状>

- 他県と比較すると、高校の生徒数に占める割合が高い。(福井県 1.5%、石川県 0.2%、富山県 1.3%、全国 0.4%)
- 平成20年度の中学卒業予定者の第1志望倍率は、平均0.9倍となっており、募集定員を下回っているが、ここ1, 2年は倍率が上がってきている。学科のうち「食品工業」は1.36倍と人気が高い。
- 県内には、1校設置(小浜水産)。日本で一番古い水産高校で、伝統があり、福井県の特色のひとつと考えられる。
- 近年、アマモマーメイドプロジェクトなどの地域と連携した小浜湾の浄化活動を展開。
- 全国においては、水産高校の生徒を集めるために、学校の名称を変えたり(海洋高校等)、マリンスポーツなどの学科を導入したりする例がある。

<課 題>

- 卒業後すぐに漁業に従事する者は非常に少ない。
- 水産業に関連した就職先はあるが、学習内容との関連性は薄くなっている。

<意見・提案>

- 水産学科では、魚を取る・育てる・加工するに加えて、「調理する」が必要ではないか。
- 日本海の近くできちんと魚を取ることも考えるべきではないか。
- 本県の海岸線が非常に長い中で、都会からの釣り人も多い。観光部門での学習が必要ではないか。
- 社会のニーズへの対応、生徒の目的意識高揚のため、学習内容等の見直しが必要ではないか。
- 県立大学との連携を進めていくべき。

⑤ 家庭系学科

【論 点】

- | |
|---|
| ・ 食育先進県、繊維王国といった本県の独自性を踏まえ、学科の配置、教育内容はどうかあるべきか。 |
|---|

⑥ 厚生系学科

【論 点】

- | |
|--------------------------------------|
| ・ 本県の福祉人材の育成のため、学科の配置、教育内容はどうかあるべきか。 |
|--------------------------------------|

<現 状>

- 女子の志望率が高い。
- 学習内容は、家庭系は衣食住・保育等、厚生系は介護等といった生活に直接結びつくものであり、保育士・調理師等の資格取得のために専修学校等へ進学する者が多い。
- 家庭系学科は、三国・美方・勝山南高校に設置。家庭系と密接な関係がある学科として、福井農林・若狭東高校の「生活科学科」がある。
- 福祉系学科は、大野東高校（福祉教養科）に設置。また、丹南高校総合学科の系列に、福祉コースを設置。

<課 題>

- 調理師の資格は、美方高校食物科で取得可能。保育士の資格を取得するためには専門学校、短大へ進学する必要がある。
- 法改正により、介護福祉士国家試験の受験資格の条件が厳しくなる。
(福祉系高校における受験資格 現行：34単位1190時間⇒52単位1820時間)
- 各資格取得に対応するためには、授業時間の大幅増、指導者の確保が必要だが、現状のままでは、対応が難しい。
- 介護福祉士等の資格を持つ人はかなりいると考えられるが、労働条件が厳しいこともあり、離職率が高い。

<意見・提案>

- 高校においても、ある程度、資格が取れるような対応が必要ではないか。

⑦ その他（新しい学科の導入等）	
------------------	--

【論 点】

- | |
|----------------------------------|
| ・ 本県の高校において設置が望ましい学科とは、どのようなものか。 |
|----------------------------------|

<現 状>

- 全国において、従来の枠にとらわれない学科、各地区の特色を生かした学科など、新しい学科の設置例がみられる。

<課 題>

- 新しい学科の設置に当たっては、主として次の観点から検討が必要。
 - ① 地域の特性を生かすこと
 - ② 社会のニーズに対応すること
 - ③ 生徒の進路希望に対応するとともに、社会人として必要な知識・技能等が習得できること。

<意見・提案>

- 拠点校方式というか、入学当初から特色のある学科に分かれて、スペシャリストとしての職業人の育成を図ることは、福井県の職業教育の水準を落とさないためにも必要。
- 単独での存続が難しい学校、生徒が必ずしも第1志望ではなく入ってくる学校などは、総合性を持った学校で、特色のあるコースを設置する方向で考えたらどうか。
- 新しい学科の検討に当たっては、福井県独自の発想で、地域特性を生かすことを考えるべき。
- 他県において、理容・美容関係の学科を置く事例がある。社会や生徒のニーズ等を踏まえた学科の導入も検討したらどうか。

(2) 職業系学科全般に関する意見・提案

- 単に複数の学科が集まっただけの職業学科ではなく、相互の連携を図り、機能的な融合を図ることが必要。
- 職業高校にはプロフェッショナルを育成するという大前提があり、生徒には、職業に関する基礎・基本をしっかりと勉強してもらうべき。
- 生徒数の減少に伴い、学校の小規模化が進むと、教員数も少なくなり、多様な充実した教育を行うことが難しくなる。ある程度の学校規模は確保すべき。
- 複数の学校が連携して授業等を行う高校連携については、大規模な学校同士であれば成功しやすいが、小規模な学校では、生徒の実情等からみてもうまくいかない場合が多い。
- あいまいな気持ちでなく、明確な意識を持った生徒が他の学科への進路変更することが可能となるシステムが必要。
- 中学生の段階から、職業に対する意識の植え付けをしっかりとやるべき。
- 生徒は人間としてまだ未熟であり、高校においては人間的・社会的教育をしっかりとやるべき。
- 高校教育においては、ある程度の幅広さを持たせたほうがよいのではないか。職業高校においては、各専門学科における学習を通して人間教育を行うという面もある。
- 職業系高校においては、基礎・基本を教えることが重要。基幹産業を中心にとらえていくのがよい。
- 高校1年目はある程度猶予期間を設け、2年目から専門教科の学習を始める方式については、学習上遅れをとり、資格試験の受験に不利になる面もあるので、慎重に考えるべき。

2 職業系学科の在り方に関する意見のまとめ

現状と課題

- ・ 社会のニーズと高校の学習との間、中学校と高校の間などに、様々なギャップが存在。
- ・ 進学率が上昇する一方、高卒者の就職先が狭まっている。
- ・ 生徒によっては、基礎的な学力が身についておらず、高校において補完する必要がある。
- ・ 生徒数の減少が進む中、子どもたちの希望をどう実現していくか。
- ・ 職業系学科は、1学科1学級が主流であり、このまま学校の小規模化が進めば、生徒の学習や学校の活動に支障をきたす。教育効果を高めるためには、一定の学校規模が必要。
- ・ 学科の細分化により、学習内容・目的がわかりづらくなっている。
- ・ 中学の時点で、生徒が将来設計を踏まえて進路の選択をすることは難しいが、職業に対する意識の植え付けは必要。
- ・ 複数の高校が連携して授業等を行う場合、相互の学校がある程度の学校規模を持っていないと、期待する教育効果が望めない場合がある。（小規模校同士では難しい。）

職業系学科の在り方

- ・ 将来の社会人としての職業観の育成、基礎的・基本的な知識・技術の習得を図ることが重要。
- ・ 自分の進路に対する明確な目的意識を持ち、専門分野を深く学ぼうとする生徒に対しては、スペシャリスト育成のための教育体制が必要。
- ・ 専門分野のスペシャリスト養成を図るとともに、進学希望にも対応するため、一定の規模の拠点校の導入を検討したらどうか。
- ・ 進路についての目的意識が明確でなく、高校において進路意識を高めようとする生徒に対しては、複数の学科に関する科目を学習することができる教育体制が必要。
- ・ 総合学科を検討する場合は、広く浅い学習によりモラトリアムの延長を招くことがないよう、目的が明確化した、特色のある学科とすることが必要。
- ・ 地元産業界や大学等との連携を強化し、長期インターンシップの実施など、実践的学習を充実する必要がある。
- ・ 専門的な学習を通して、生徒の人間教育、社会教育を充実させるべき。

各職業系学科の在り方

商業系学科

- ・ 長期インターンシップの実施など、地元産業界との連携の強化が必要。
- ・ 社会に出てから即戦力となるような実践的教育が必要。
- ・ 社会の新たなニーズに対応するため、地域の実情を踏まえながら、商業と農業との複合を検討したらどうか。

工業系学科

- ・ 各学科の特色を出していくことと平行して、学科の選択・集中を図るべき。
- ・ 学科名は電気、機械、建設等の基幹的なものとし、生徒が工業に魅力を感じるような学習内容やカリキュラムの見直しが必要。
- ・ 県内各高校の同じ学科同士が連携を図り、夏休み等に生徒と教師がともに学ぶ研修を実施したらどうか。
- ・ 長期インターンシップの実施など、地元産業界との連携の強化が必要。【再掲】

農業系学科

- ・ 学習内容と就職先との関連性が薄くなっており、今後、学習内容・カリキュラム等の見直しが必要。
- ・ 商業など、他の学科もあわせて学習し、自分の進路を考えることができる教育体制の検討が必要ではないか。
- ・ バイオテクノロジーなど、工業と農業にまたがる技術がある。新しい産業へのマッチングを進めることで、農業学科への生徒の進路意識が高まるのではないか。
- ・ 本県は農業県であり、農業の大切さを子どもたちに積極的に教えていくため、農業の勉強をする機会は確保すべき。
- ・ 学習内容は、生産から流通までを含めた幅広いものにする必要がある。

水産系学科

- ・ 学習内容と就職先との関連性が薄くなっており、今後、学習内容・カリキュラム等の見直しが必要。
- ・ 社会のニーズに対応するため、観光部門での学習、あるいは「調理」に関する学習を取り入れたらどうか。
- ・ 県立大学等との連携を進める必要がある。

家庭系学科、厚生系学科

- ・ 介護福祉士など、関係する資格の取得にかかる条件が厳しくなっており、学科・教育内容の今後の在り方について検討する必要がある。

その他（新しい学科の導入等）

- ・ 専門分野のスペシャリスト養成を図るとともに、進学希望にも対応するため、一定の規模の「拠点校」の導入を検討したらどうか。【再掲】
- ・ 従来の学科の枠を越えた横断的学習を通して、多面的なものの見方・考え方を養う「総合技術学校」「総合産業学校」の導入を検討したらどうか。
- ・ 単独での存続が難しい場合や、生徒が必ずしも第1志望ではなく入ってくる学校などは、総合性を持った学校で、学科の枠を越えた選択もできる柔軟な教育課程を編成する方向で考えたらどうか。
- ・ 新しい学科の検討に当たっては、福井県独自の発想で、地域特性を生かしたものとすることを考えるべき。